

相場：皆さん、こんにちは。相場師朗です。

加藤：こんにちは。アナウンサーの加藤満理子です。

前回の動画はいかがでしたでしょうか。相場さんのお人柄と意思をご理解いただけたのではないのでしょうか。

さて、第2話では、相場さんと、ラジオにもご出演いただいた相場さんのお弟子さんにお集まりいただきまして、株の技術についてお話を伺いたと思います。皆さま、よろしくお願ひします。

全員：よろしくお願ひします。

加藤：それでは、早速、相場さんから、皆さんのご紹介をお願ひできますか。

相場：そうですね。では、真ん中から行きましょう。中の人はおじさんです。

加藤：それはみんなですから（笑）。

相場：みんな、おじさんか。

前川：僕だけ若いと思っていたのですけれども。

相場：前川さんですね。もう、いろいろ私のセミナーとかに出ていただいたり、それからラジオ NIKKEI にも出演していただけていて、元国内最大手の美容外科の院長先生でいらっしやって、今は相場師というか、プロのトレーダーとしてご活躍。最近ほぼ全勝。

加藤：素晴らしい。

相場：全勝。さすがですね。前川さんね。

今度は順番でいうとO橋さんですね。O橋さんもラジオに出演していただきましたけれども、O橋さんは大手ベンチャー系企業。

O橋：から、今、上場会社の子会社というか。

相場：上場会社の関連会社に入り、行かれて、そこの社長をされているということですね。それで、大きな会社の社長をしながら、東京大学の講師も務められているということで、多岐にわたってご活躍。それでトレードもやっておられる。今回か次回が分かりませんが、

最近のトレード披露していただくということですね、〇橋さん。

それとこちらは亀ちゃん。亀山さんですね。亀山さんも大変優秀でいらっしゃいまして、もう MBA。アメリカの大学の MBA まで持っていて、シリコンバレーで大活躍をして、今は自分の会社を経営しておられる。亀山さんも、今はトレーダー。もう 3 人、仲良しで、いつもね。この前の打ち合わせのときなんか、俺が真面目に打ち合わせをしているのに、株の話。話を聞いているのかよ。

加藤：いらっしゃいましたね。切れ間がないのですよね。

相場：やっと話が終わって、では、打ち合わせにしようと思って動きだすと、また株の話をしているという。本当に株が大好きなおじさんたちで、もともとは、私と知り合ったのは、前川さん、何年ぐらい前ですか。

前川：もう 3 年に。

相場：3 年ぐらい。

前川：ちょうどぴったり丸 3 年ぐらい。

相場：そろそろ浮気する時間ですか。3 年目の浮気ね。〇橋さんはどれぐらいでした？

〇橋：ちょうど 2 年ぐらい。

相場：2 年ぐらいね。亀山さんが？

亀山：1 年半。もう少しですね。1 年 7 カ月。

相場：1 年 7 カ月。だから、5 年 10 年のお付き合いではないけれども、この年になって、皆さんもそうそうたるメンバーですけれども、多分、これは一生の付き合いになってしまうかなと。付き合いが崩壊するのは、東京証券取引所がなくなったときかなという感じがします。このお三方に今日は来ていただいています。

加藤：それでは、前川さん、〇橋さん、亀山さんの最近のトレードの成果について、お話を伺っていきたいと思いますので、皆さん、ぜひご期待ください。

(中断)

加藤：それでは皆さま、改めてよろしくお願ひいたします。

全員：よろしくお願ひします。

加藤：相場さんがすごいということは、この動画をご覧の皆さまはよくお分かりのことだと思ひますが、相場さんだから勝てるのでしょうかというふうに思ひていらっしやる方が多いと思ひます。そこで、今日は相場さんのトレード手法を学び、実践されているお弟子さんの皆さんからお話を伺ひまして、この動画をご覧の皆さんもできるようになるのだということをお伝えしていきたく思ひます。

それでは、前川さんから、最近、実践されたトレードについて説明していただけますか。

前川：ただ今、ご紹介にあずかりました前川です。では、僕が最近、取ったやつで、ちょっとしたショットガントレードというやつなのですけれども。

相場：超短期トレードですね。

前川：はい。

相場：われわれのトレードは3種類あって、1つはうねり取り、それからショートトレード、そしてショットガン。一番短い期間で利益確定をする。これね。はい、お願ひします。

前川：この中でもう、あれですよ。○橋さんのところも見たら、師匠といへば、この形みたい。もう『The』ですよ。この3年間でこの形を2万回ぐらい見ました（笑）。実際に2万回見えていますよね。

相場：そうですね。

前川：もう師匠のあれですよ。逆張り、こう下がってきたやつの上げを狙うというのですかね。

相場：そうですね。

前川：ここで。結論を言うと、こここの下半身。底、底、底。綺麗に切り上がってきたここで。ちょっと拡大しますと、下値が切り上がってきて、ここです。ここで買ひを入れさせていただきました。

相場：ここで買いを入れた。ちょっと今、解説しますと、私は、これは前川さん、取れたなというのが分かるのは、100日移動平均線、300日移動平均線、60日移動平均線、20日移動平均線、全部下げているわけですから、これはもう下げ相場ですね。下げ相場で、そして、ずっとこう20日移動平均線の下にいたのが20日を超えて、60日線まで到達することができるようになった。下げが20日移動平均線を割り込まずに、前回、60日移動平均線まで上げたのですが、今回は20日移動平均線を割り込まずに、100日移動平均線にトライできるようになった。だから、今までは県大会レベルだったのが、今度は全国大会まで。ちょっとスランプで落ちたけれども、この過去の安値を下回らずに、今度は全国大会でベスト8に入る。ここはまだ、この紫の100日移動平均線を超えていませんが、今回は超えてきましたから。すると、この段階では届くこともできない。ぎりぎり届かない。今度は超えてきた。次の下げが前の安値を大きく割り込まなければ、次の上げはこの100日線を超えてくるであろう。こういう読みですね。

前川：はい。もう何回も何回も教わったので、もう回路ですよ。

相場：回路です。頭に回路ができた。

さて、では、前川さん、トレードしてもらいましょうかね。では、他のお2人は前川さんのトレードをよくよくこう見て、いろいろちょっと文句をつけましょうよ。

前川：これはちょっと運が良かったので、文句も何もないと思うのですけれども。

相場：5日移動平均線。下値がもう固まってきた。それから、株価の成長ですね。100日線を超え、前回、超えて下がった。今度は5日移動平均線の上に陽線が出ている。これを私は皆さんに下半身と覚えなさいと言っていますね。下半身は買いたと。そこで、では、入れてみましょう。

前川：はい。ここであれですね。

相場：これであれですね。

前川：0-2ですね。

相場：左側が空売りを持っている数。英語で言うとセルショートというやつですね。ここが買いですね。英語で言うと、カーイですね(笑)。つまり、今、空売りが0で、買いが2、4,000株持っているという状態ですね。はい、行きましょう。

前川：ここで単純に買いを入れて。

相場：明日。

前川：明日。

相場：これは日足チャートですからね。

前川：拡大してもいいですか。

相場：拡大しましょう。

前川：はい。ここで、ああ、超えてきたなど。

相場：はい、超えてきたね。20日移動平均線、緑がブルーの60日移動平均線を下から上に抜いてきましたから、今までずっと下げてきたのが徐々に下げが緩やかになって、上昇に転ずるような雰囲気と。これはもう皆さんに散々もうお教えして、30年ぐらい前から教えている（笑）。

前川：2万1回目（笑）。

相場：では、やってみましょうか。

前川：はい。こいつを買いで、ちょっと足して、ピコッと。いいですね。

相場：前川さん、右上の引値発注で44万円の利益、寄付発注で28万6,000円の利益。

今、どうですか。皆さん、この紫の100日移動平均線に届かない。ちょっと超えた。下がったけれども、前の安値を割り込まずに、今度は100日線をきれいに超えてきましたね。いいですね。

前川さん、この後、実際はどうしました？

前川：実際はもう、どんどこどんと行くと思ったのです。すごくきれいに上がり過ぎているので、ここは、実際はちょっと眺めていました。さっき足したので。後から考えて、ここで買いを足しても良かったなと思ったのですけれども、あまり上のほうで足すと師匠に怒られるので、ちょっと迷った場面ということですね。

相場：なるほど。ここはあれですかね。亀ちゃんだったら。

亀山：ここは、2を足しますね。

相場：2を足す。その理由は？

亀山：これは2つありまして、60日線をしっかり超えて、窓を開けて超えたということと、2,550円の節目を抜けているということですね。

相場：はい。O橋さんだったら？

O橋：僕も買いを足しますね。多分、これはB局面、ボックスだと思うのですよね。前の高値2,650円ぐらいでしょうかね。あそこまで期待できるのではないのかなということで買い足しますね。

相場：なるほどね。さて、では、そういう。

亀山：すみません。あと60日線と20日線の角度がこう、少し上向きになってきたように。

相場：そうですね。この角度がね。

さて、今、皆さんが言葉に出しているのが移動平均線という言葉ですが、世の中で移動平均線というのは昔からあるのだけれども、われわれは同じ移動平均線という道具でも使い方が違いますからね。道具を使って、われわれの技を実現するといえますか。

では、前川さん、ちょっと続けてやってもらえますかね。

前川：はい。では、ちょっと実際は買っていませんのですけども、亀山さんに敬意を表して、2を買い増しで。

相場：実際は、前川さんが本当にトレードをしたときは、この部分は買い足してはいなかったけれども、今回、お2人の盟友のアドバイスで2を足しました。合計、今、お持ちなのが1万株ですね。どうぞ、お願いします。

前川：はい。次ですね。

相場：上がりました。

前川：いいですね。

相場：だから、もし本来だったら、昨日足せなくても、今日ね。昨日は 100 日線をしっかり踏んで、超えて。今日はローソク足全部が下ヒゲを含めて超えてきたので、今日足してもいいかもしれませんから、ちょっとね。これは、では、私のアドバイスで、1 つ足して。では、行きましょう。

前川：はい。ああ。

相場：ですね。前川さん、ここで何か気付かれたことは。

前川：ここら辺で、前の高値は当然なのですが、もう下から 5 日。師匠のいつもの教えの 7 の法則。

相場：7 の法則。これを無料ビデオで言ってしまっ。

前川：ああ。

相場：大丈夫ですよ。

前川：セブンの法則で。

相場：あまり変わりませんね。

前川：7 の法則を、この辺から意識しだすイメージですね。

相場：なるほど。そうですね。連続 7 日以上上げるというのはなかなかないので、7 日ぐらい上げると 1 回弱ることがあるから、例えばそこで切るというのも一つだし、大きく上げるときは 7 日連続で上げた後、弱っても、それは当然、7 日上げれば弱るのだから、無視をして、我慢をしていいよ。2 つの捉え方がありますしね。では、続けていきましょかね。

前川：下値が切り上がってきているので、取りあえず前の高値を実は超えるだろうと思いつつも、でも、7 の法則があるしなという、ちょっと葛藤があるような場面なのですか。

相場：おお。

前川：超感動ですよ、もう。

相場：これで移動平均線以外に、前のこの高値。9月の高値と10月の高値に並んできました。この並んでいる状態だと、瞬間風速ではここでこれは弱りましたよね。ここもこう弱っていますから、前回よりは強い動きですよ。この2,650円を通過する時点での瞬間風速は今が一番強いというイメージね。

前川：そのまま買いをキープして。よいしょ。あつ。

相場：やはり前の高値に並ぶのね。こういうことがあるのですね。

このとき、これは会社はどこだと、今、考えたの。京成電鉄ですよ。われわれのやり方だと、京成だろうが、東武だろうが、関係がないわけ。チャートの動きでね。このときに日経平均がいくらであったとか、それからニューヨークダウがどれだけだとか、為替がいくらだとか全く気にしないで、チャートだけでやっていくことができますね。

では、もうちょっとやってみましょうよ。前川さん、これね。

前川：で、これで、横に並んでもうはらはらどきどきしながら。

相場：うん。はらはらどきどきで行け。やはり前の高値に並ぶよね。これは陰線2連チャンだったら、ここで切ろうというね。

前川：もう、はい。実は陽線なのですけども、横に並んだので、どうしようかなという、悩みに悩んでという感じですよ。

相場：もう利益が100万円を超えています。実際、前川さん、これはもっともっとやっているでしょう？

前川：いえ、もう（笑）。いや、あれがあれですね。

相場：だって、これは、ここの今の想定だと1万2,000株だけれども、前川さんだったらもっと3万、5万やっているでしょう。

前川：ええ（笑）。

相場：はい、どうぞ。



前川：はい。これでもう、あれですね。これが昨日なのですよ。

相場：これが昨日。今、持っている？

前川：ええ。それで、さっき、これは動画で見ていたのが 3 時ではないですか。ちょっと今、どうしようかなと、さっき亀山さんと一緒に悩んでいたのですけれども。

相場：2人で悩んでいるから、これが始まるのに。1時半ぐらいに始まる予定だったのが 3 時ぐらいに。2人が今、トレードをやっているから。

さて、今日はどうなったのですか、形勢は。もうリアルですよ。今日はプラス 76 円。ということは、ここからどこまで上げたかということ 2,700 円まで。

加藤：すごいですね。

相場：この辺まで上げている。ということは、前川さん、多分、3 万株持っていたとしても、どうだろう。1,000 万円ぐらいもうかっているでしょう。

前川：いえいえ。

相場：あれしてこうなっているでしょう。

○橋：前の高値を超えましたね。

相場：超えましたね。

加藤：そうですね。

相場：ちょっと週足を出してみませんか。

前川：はい。

相場：なるほど。前の高値に並んでいる段階。まだ、だから、週足ではこれですね。週足で言うと、下がって横ばい。上げ下げ上げ下げ。下値はもうこれは一定になってきた。上値が一定に並んできていますから、この後、下がってしまう可能性もあるけれども、今までとの違いは何かということ？ 前川さん。

前川：はい。20 日線に触るだけ、触るだけ、超えてきたという。

相場：ここは完全に超えてきた。可能性としては、確かにこれはボックス圏。下がった後の横ばいのボックス圏ではあるけれども、ボックス圏の高値に来ているけれども、今までと違うのは、今、前川さんがおっしゃったように、20 日線の上に完全に出ているということです。だから、まだこれはいいかもしれない。

月足を見てみましょうか。月足でどうなっているのか。なるほど。2,500 円の節目で底が固まった。ただし、緑の 20 カ月移動平均線が下を見ていますから、月足ベースで行くと、先ほどの週足の上限で止まる可能性もあるので、やはり先ほどの週足の。もう一度、週足をお願いできますか。週足のここですね。この上限近辺で日足がどう動くか。

つまり、今、これの想定だと 1 万 2,000 株でまだキープ中ですが、この上が並んでいますから、日足で見るとこの並んだあたりの近辺で、今日はここまで来ています。ここでいざこざがあって弱ってくるようだと、この上昇はいったん終わり。そこはいざこざがこの辺でなくて行けば、もっと伸びるイメージですね。

前川：師匠に教えてもらったこの形は強いということですよ。

相場：ですね。ばっちりきれいにやりましたね。すごい、すごい。さすが一番の兄弟子だから。

どうですか、加藤さん。前川さんのを見て。

加藤：素晴らしい。いや、前川さんのようにトレードができるようになりたい。

相場：なりたい。

加藤：なりたい。

前川：僕は加藤さんのようになりたい（笑）。

相場：面白いですね。

加藤：さすがのトレードを見せていただきました。

相場：すごいですね。こう見ると、後から見るとそうだろうと思うけれども、実際に見えない状態でこのトレードができるかといふとなかなかできない。

加藤：難しいですよ。

相場：難しい。でも、前川さんはもう 3 年お付き合いいただいて。とにかく毎日、練習。お医者さんを辞めて、もう相場師ですから、本当に上手になりましたね。とにかく研究熱心。一生懸命、勉強されていて。特に全国を回って、私の株の伝道師をやってから、自分だけではなくて、どなたかにお教えするから、そのためにも勉強にちょっと気合が入っているのね。

前川：そうそう。伝えて回るようになってから、もう 1 個、こうギアが入ったような。

相場：上がりましたね。

加藤：やはり教えるというと、自分もまた、こう自分の中の能力が上がるといいますもんね。

相場：そうだと思いますね。インプットだけではなくてアウトプット。

昨日、このこのオフィスの向こう側の会議室で、既に株塾に入った皆さん、勉強している皆さんに、もっと上手になるには。私のセミナーではなくて、前川さんのセミナーがあったのです。俺は隣で、テレビ画面でずっと見ていた。本当に一生懸命、教えている。次回、もっと一生懸命教えるために、私が通るとすぐつかまって。「ここはどうしたらいいですか？」とか、どんどん質問している。だから、どんどん上手になっていきますね。素晴らしいですね。良かった、良かった。

前川：でも、あれですね。この形はもう、われわれ弟子なんかは、もうこの形を見た瞬間、反応するのではないですか。もう共通認識ですよ。

○橋：そうですね。

前川：この形は何というのですかね。

相場：○橋さん、これはもう反応しますよね。

○橋：そうですね。見かけたら売りたいくなりますね。

相場：亀ちゃんも。

亀山：もう、もちろん。見たら、はい。いろいろ銘柄を増やさないように頑張っています（笑）。

相場：分かりました。いや、いいトレードでしたね。

加藤：はい。前川さん、ありがとうございました。

さあ、続いては〇橋さんですね。よろしくお願いいたします。

（中断）

加藤：続いては、〇橋さんの最近のトレードを説明していただきたいと思います。よろしくをお願いします。

〇橋：はい、よろしくお願いします。

相場：では、お願いします。

〇橋：私はちょうど10月の頭ぐらいから、9月からずっと旭化成を見ていまして。

相場：旭化成を選んだ理由というのはどういう？

〇橋：旭化成は、ちょうどこのあたりでもうショットガン、短期トレードでは取ってはいたのですが、だんだん300日線を超えて、1回下がってきて。ただ300日線を下がない。かつ60日線の上にとずっといるということで、これはきっと強いのだろうと。上がっていくのだろうというところで。ただ、今、小さなボックスになっていますので、それをいつ抜けていくのかというところを待っていたというところがありました。

相場：なるほど。では、早速、ちょっと〇橋さん、やってもらえますかね。

〇橋：はい。その翌日で、こちらですね。こちらで小さい、これはボックスを抜けたところで。

相場：チャート、大きくできますか？

〇橋：これは、これですかね。

相場：おお。われわれが非常に大事にしているのは 300 日移動平均線。やはりなかなか、これは下からだを超えられないことが多いのですよね。今度は上にいると、なかなか下まで来ても上がってしまうという習性があるわけですね。なので、これはやっとな 300 日線を超えてきて。でも、なかなかこう生まれたばかりですから、なかなか上がりきれず下がってきたけれども、これを耐え忍んでいた。この青の 60 日線を割らない。もう一つは 800 円という重要な節目ですかね。○橋さんはこれで買いを、今日、入れましたか。

○橋：この日に入れました。買いを入れました。

相場：なるほどね。分かりました。では、入れました。

○橋：2 を入れました。

相場：2 入れました。見てみましょうか。どうぞ。

○橋：翌日、陰線。高値。高く始まって、陰線だったのですが、5 日線、20 日線の上でしたので、これはそのまま耐え忍んだ。

相場：耐え忍んだ。

○橋：こちらはまだ上ですので、耐え忍ぼうかと思ったのですけれども、ヘッジを 1 つ入れました。

相場：陰線が 2 日続いている。真下に 300 日移動平均線があるというのは、もうここに吸い寄せられる可能性がありますから。ただ、5 日移動平均線が下から 20 日移動平均線を抜いていますから、これはわれわれのセオリーだともしかしたら上がるかもしれないというところでしょうね。

さて、○橋さんはヘッジを。今、○橋さんの本玉は、この右側の 2 ですね。これが本玉で、こいつを何とか上まで持っていきたい。ただ、ちょっとこの 2 日間、弱い感じがしますから、ヘッジを入れた。これは誰が入れるかという銭形ヘッジ（笑）。駄じゃれの練習もしていただきたい。さて、やってみましょうか。

○橋：次の日、翌日ですね。翌日、上がりました。

ただ、上ヒゲが少しどうかというところで、かつ前の高値。こちらですね。こちらと並んでいますので、これはそのまま様子見をしました。

翌日、あっ、下がったと。ただ、前のこの下の線、こちらですね。この値は、まあ……。

相場：だから、並びの中にあるだろう。

○橋：それで、これはこのままで。

相場：ちょっと怖い怖いですよ。20日線が下を見ているし、今まで上を見ていた5日線が横ばってきた。

○橋：怖いということで、スクエアにいったん、私はしていました。

相場：こうすると、買いを2つ持っていて、空売りを2つ持っていますから、上に抜けても、下に抜けても、これ以上の損失は膨らまない。今、右上を見てもらうと、寄付で売り買いをした場合は7万8,000円ぐらいのマイナス。それから引けですね。引けで売り買いをした場合はマイナス4万5,000円。この途中経過でマイナスがあることは、われわれの手法だと全く問題ないわけです。将棋で途中に取られても、最後は勝つための動きの中の一つということですからね。はい、では、○橋さん、続いていきましょうか。

○橋：はい。翌日です。うーん、怖い。

相場：おお。だけれども、空売り2、買い2だから、全く大丈夫。

○橋：様子を見ました。

前川：ここは怖いですね。

相場：怖い。

○橋：ただ、ここは20日線、60日線を割ったら、もう売りを大きくしようとは思っていません。翌日ですね。

相場：なるほど。

○橋：ここで5日線を超えて陽線で。なので、ここの下値は固いのだということ。

相場：緑の20日移動平均線は、過去7日間、割っていない。これは強い。それから、ここ。

間もなく、これは 20 日線が 60 日線を割ったけれども、このまま上がると超えていきますからね。

○橋：はい。ということで、1つ減らして。

相場：ヘッジを1つ減らして、買いを増やした。

○橋：こっち側を2つ足したと。

相場：オーケー。

前川：芸が細かいですね。

○橋：それで、翌日。

相場：はい。おおっ、抜けてきた。

○橋：全然抜けました。こちらの前、直近の高値を超えてきましたので、売りを切って、こちらを足した。

相場：買いを足した。なるほど。

前川：○橋さん、うまいですね。

○橋：ありがとうございます（笑）。

相場：それと、これはこの赤い移動平均線に注目をしていただくと、こうして 60 日線を割りそうになったけれども、割らず、ここでの赤い 20 日線の高値をここで超えています。一度、この赤い 5 日移動平均線が下がってきたのだけれども、前のこの安値。この赤い線だけ、5 日移動平均線だけに着目すると、上がって下がったけれども、この安値はここを割っていない。もう一度上がったときに、この赤い 5 日移動平均線の高値を超えていく。ちょっと 2 日間だけ 5 日移動平均線が下がったけれども、この赤い 5 日移動平均線の安値を割っていませんから、上昇傾向になってきたと思いますね。

そして、晴れて 100 日線が上を見えていますし、それから 60 日線が上を見えていますし、20 日線が上を見て、5 日線が上を見えていますから、基本的には 300 日線以外、全部、上を見えていますから。

○橋：これは強いのだろう。

相場：強いだろう。なるほど。はい、行きましょう。

○橋：抜いて。あっ、いいですね。

相場：いいですね。これで○橋さん、何か、もし問題があるとしたら？

○橋：私は、ここで追加をしなかったのですね。

相場：なるほど、なるほど。

○橋：もしかしたら追加をしても良かったのかなと、今になっては思います。あとは、次のこの高値、前の直近の高値ですね。

相場：そう。前の高値に並ぶと、弱ることが多いですからね。抜けたら買ってでもいいかもしれませぬ。どうぞ、どうぞ。

○橋：続いて、これはそのまま5日線の上ですので、そのまま。

相場：キープだね。

○橋：キープ。ここで陰線が出ました。

相場：やはりこれは前の高値にこう並んでいくと、横ばいになって弱ってしまう。さて、ここで○橋さん、どう対応したのだろうか。

○橋：私はここで勝っていますので、このままもう切ってしまっ、利益確定も考えました。ただ、先ほど先生がおっしゃったように、5日線、20日線、60日線、100日線、いずれも上向きで。

相場：はい。上を向いていますね。

○橋：これは強いかもしれないと疑って、売りヘッジを、下がってもいいように、損失が減るようにヘッジを入れて。



相場：半分ヘッジ。

○橋：半分ヘッジを入れて、耐えましょうというような決断をこのときにした。

相場：なるほど、なるほど。空売り 3、買い 6。さて、○橋さんの判断は？

○橋：続いて。

相場：うん。まあ、悪くないですけども、良くもない。並んできた。

○橋：ちょっとこのまま様子を見ましょう。

相場：はい。

○橋：それで、おおっ。完全に。これは直近の高値も超えて、前の高値も抜けたので、これはもう売りヘッジは要らないでしょう。かつ、これは買いを足しましょう。ここまで。

前川：教科書どおりですね。

相場：教科書どおりというと、教科書がないなんて（笑）。

○橋：いやいや。先生の教えが教科書ですね。それで、こちらで。

相場：抜けましたね。

○橋：抜けました。抜けました。あっと思ったのですが、まだ弱ってきた。ただ、5日線の上ですので、いずれも、300日線以外は上向きですので、少し我慢しましょう。これも、僕は我慢してしまいましたね。

相場：○橋さん、例えばここで横ばいになったり、ここまで順調に上げてきたのに、コマになって、横ばいになって。この理由はどういうふうに、私はセミナーで言っていましたか。

○橋：これは、そうですね。

相場：なった理由ですね。ここで横ばいになった理由。

○橋：なった理由としては……、何でしょう。

相場：今、東大の頭脳が動いている（笑）。

前川：カチャカチャ音がします。

○橋：ここに 1,000 円という大きな節目があるのですよね。こちらがあるということと、ここから数えると、もう 7 日間以上、上がっているということがあります。

相場：そうですね。やはりある程度、連続で上げると、この辺で買った人や、この辺で買った人や。○橋さんはこの辺で買っているけれども、他の人はこの辺で買っている人もいるし、実はこの辺で買っている人もいるし、この辺で買っている人もいるし、実はこの日においては、過去、全部、下ですから。この日においては、その前日より前に買った人は全員がもうかっているから。株はもうかったら、売って、お金に換えて、豊かな生活をするために、皆さん、株を買っていらっしゃるから、この日の時点では全員がもうかっているの、売りが入る。利益確定売りが入るので、横ばっているというイメージですかね。

さて、この後、○橋さんはどう戦ったのでしょうか。

○橋：私の方針は、5 日線を割ったら、もう手仕舞いしましょうというふうに考えています。

相場：もう 300 万円近く利益になっていますからね。

○橋：はい。

相場：あと、行け。

全員：おお。

相場：行きました。これは実際、これだけお金をやっていたわけではないですか。これは実録だから。どきどきでしょう？

○橋：どきどきでしたね。それで、もうちょっと持っていました。あつ、ちょっと。ちょっと下がっていたのですが、終値で 5 日線ぎりぎり上かな。しかし、これはもうちょっと我慢しましょう。

相場：はい。次。

○橋：翌日。ここで完全に、陽線ではありますが、上ヒゲが大きくて 5 日線を割っていますので、ここで手仕舞いました。

前川：格好いい。

相場：そうすると、引値で 280 万ぐらい、寄付で 250 万。どちらで実際、トレードをされていました？

○橋：引値でやっていました。

相場：大体 280 万ぐらいの利益。素晴らしいですね。これも先ほどの前川さんのトレードと同じように、後からこう見れば、この辺で買って、ここで手仕舞ってなのだけれども、こちらが分からないところで次を予測しながら、途中でヘッジを入れたり抜いたりしながら、ここまで持ってきて、現実に 280 万円の利益を得られる。どうですか。このトレードをされて、感想は？ ○橋さん。

○橋：いや、もうドキドキですよ。

相場：ドキドキですよ。そうそう。

○橋：ここの陰線で、もう本当に切りたいな。

相場：分かります。利益にはなっているし、だけれども、教えていくと、まだ 5 日線を割っていないし、300 日線以外は全部、上を見ている。

これは、○橋さん、何で。あれではないですか。もしかしたら 300 日線を 100 日線が上に見ているし、60 日線も上を見ているし。20 日線も上を見ているから、もしかしたらこの後、ちょっと下げて返すのだったら、まだ持っていてもいいかもしれませんね。

○橋：ただ、これは 11 月の頭ですよ。確かこの翌週の頭ぐらいに大統領選挙があつて。

相場：なるほどね。

○橋：何が起きるか分からない。

相場：分からない。皆さん、切るように。では、ちゃんと言いつけを守って。

加藤：教えを守っていらしたのですね。

○橋：そうそう。もう終わりでしょう。早く楽になりたい（笑）。

相場：みんな、もう気持ちは一緒でしょう。楽になりたい。

前川：含み益もつらいのですよね。

相場：そう。もうかっているのもつらいわけ。ずっともうかっているのを持っているのだけれども、下がるのが嫌なわけだから。

加藤：確かにそうですよね。

相場：いや、気持ちがよく分かるな。

○橋：実際、持っていたら、翌日上がって、しまったとは思ったのですが。

全員：おお。

相場：ということは、やはりあれだ。勉強会で、もうすぐアメリカ大統領選があるから、もう切っておいたほうがいいよ。どっちになるか分からないようなものにかかる必要はないから。ラジオでも言っていましたもんね。

加藤：そうですね。

相場：よく言いつけを守ってくださって。

前川：いや、でもあれで資産を守った人いっぱいいますよね。

相場：いますね。

前川：その言いつけを守っている人は、助かっていましたよね。

相場：いや、次の誕生日は期待だな（笑）。いや、いいトレードでした。どうですか。前川さん、今の〇橋さんの。

前川：いや、〇橋さん、うまいです。僕、実は、この日に、亀山さんお得意の亀山モデルで、3カ月上がって、下がって、もう20日線にも届かず、陰線が出たとき、くっくっくっと思っていました。ここで売りを入れて、それで、あれっとか思っているわけです。でも、ボックスの中だから、大丈夫だと思って。ここで、ああ、よしよし。5日線を割ってきたぞ、よしよしとか思っ。ここで、うん？ でも、まだボックスの中だから、よしよし。

相場：しかも、上のほうだしね。

前川：ええ。それで、ああ、来た来た。おまえ、もうやきもきさせるなよと思っていたのですよ。それで、もうこのまま、いただきとか思っていたら、旗色が悪いから。けれども、うーんとか思っ。これで、もう。

相場：これは下半身なのだよね。

前川：もうやばいと思っています。でも、やばいと思っているのですけれども。

相場：上にほら。これが。そうそう。もうみんなの考え方が一緒で。頭はこれ。

加藤：そうですね。

相場：そろっているから、この後、下がるだろう。ただ、5日線の上に陽線で全部乗っているし、微妙。〇橋さんも、ここではまだ手を出してないですね。

〇橋：そうですね。20日線で当たって下がる可能性もありますもんね。

前川：それで、ちょっと、もう1日だけ様子見ようと思っ。ああ。

相場：ここで〇橋さんは。

〇橋：確かここで。

前川：僕がここでごめんなさいをしたの。何だ、上がるのかよと思っ。

○橋：では、前川さん、私が買いで入ったところで手仕舞った。

前川：そう。だから、僕が売った玉を買ったのが○橋さんですよ！（笑）

相場：内輪で。でも、前川さん、これはこれなりにいい。実は、私が皆さんに言っているのは、何かうまくいかなかったときに反省をして、それで原因を探る。これで終わり、次ではなくて、原因を探る。次回は同じような失敗を犯さない。この繰り返しを上達だと言っている。何か学んだことはありますか。

前川：そうですね。後から見たら、これは 60 日線も上がっているし、100 日線も上を向いている。何よりも師匠が大好きなこの 300 日線周りで、ちょっとあんまり、こういう勝負に出たのがいけなかったのかと思うのですけれども。

相場：そうですね。300 日線周りだと。亀ちゃんも、ここは？

亀山：ここは、もう本当、300 日線を消すと、これはもう下がるように見えてしまうのですね。

全員：おお。

亀山：大体、こういうとき、300 日線がこの辺とかを走っていると、結構、落ちてくるのですけれども、300 日線の位置が非常に高かったのも、これはちょっと怖いなど。

前川：さすが 300 日線がない世界からやっている人が。だって、300 日線が現れてから、急にトレードが楽になりました。

亀山：そうですね。普段は 300 日線、こういうところのないトレードが多いので、あれなのですけれども。こう 300 日線があると緊張しますね。

相場：やはり 300 日線の周りというのは、もう上に行くか下に行くか分からない。非常にナイーブなゾーンですからね。

○橋：300 日線があって、その上をずっとキープしているところが、もう買い判断のよりどころですよ。

相場：なるほど。もう何か、東大の脳みそが。

前川：今、東大の講義みたい。

相場：しかも、先生だからね。

〇橋：相場先生がおっしゃっているとおり、人間ですからね。

加藤：人間。そうですね。

相場：そう。300日線の上は人間、300日線の下は妖怪。

加藤：お話が、ちょっと300日線で盛り上がっているところなのですけども。

前川：好きですから。

亀山：僕、下目線だったから我慢した日があって、ここは次の日が陰線だったら、ここで売り入れてたんですけど。

相場：売るか。そういう可能性もありますね。

亀山：すみません。

加藤：はい。ちょっとスタッフの方から、第2話クランクアップという連絡が入りまして。

相場：もう株の話をするとう終わらない。

加藤：そうですね。では、亀山さんには次回、実際にトレードを見せていただこうと思いますので。

前川：見せ場が。亀山モデル。

〇橋：うわさの。

加藤：では、第3話でよろしく願いいたします。

相場：〇橋さん、どうもありがとうございました。

〇橋：ありがとうございました。

加藤：ありがとうございました。

前川：格好いい。